

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (東北)		コンビニ（店長）	来客数の動き	・夏の最盛期であり年間最大の稼ぎ時であるが、今年は気温も高く天候にも恵まれたため、前年を上回ることができている。また、祭りや観光に訪れる外国人観光客の影響もあるとみている。
		百貨店（売場主任）	それ以外	・全体的に客の購買力や生活防衛意識に大きな変化はない。依然として衣料品、ファッション関連商材の動きは厳しいものの、化粧品が継続して堅調なほか、美術品、宝飾品などの高額商材の動きが良く、売上が上向いている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・7月中旬から、天候に恵まれており、来客数が前期比で回復している。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・5月に90.4%であった売上の前年比が月を追うごとに改善しており、8月は99.6%と100%に近い状態となっている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・猛暑の影響もあり、水を求めての来客が目立っている。サラリーマンにはアイスコーヒーが、家族連れや女性には純粋に水系の商品が売れている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・今月は天候が良く、冷たいものがかなり動いたため、良くなっている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・夏の気温上昇もあるが、ワンプランドとなったことによる好影響がみられている。また、競合他社の出店があるなか、他社閉店の影響で来客数が増加している店舗も見受けられており、全体としては以前と比べてやや上向きとなっている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・この夏の酷暑により、飲料及びアイス類の売上が増加している。ただし、全体的な売上の動きとしては、個人消費の急激な上昇とはなっていない。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・月の前半は苦戦したものの、お盆以降の来客数は順調に推移している。また、前年よりも気温が高く夏物需要をけん引している。今年のお盆は休みが取りやすい人と取りにくい人に分かれたのが、余り遠出をせずに国内での消費に向かっている。そのため、スーツなども購入されているように見受けられる。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・地元の大きな祭りやお盆により今月中旬までは動きが鈍かったものの、20日以降から動きが出始めている。9月の需要期後半に向けて、一気に波に乗りたい。
		住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・8月はお盆のため仏事の小物が多く売れると期待していたとおり、前半の売上は好調だったものの、お盆以降はびたっと止まっている。
		その他専門店〔靴〕（従業員）	販売量の動き	・購入客数は増加しているものの、客単価の低下が大きく、売上は微減となっている。
		一般レストラン（経営者）	単価の動き	・通常であれば暑いと余り売れない商材であるが、景気が良くなっているのか、猛暑にもかかわらず客単価が非常に伸びている。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・月前半の天候が良かったこともあり、個人消費が比較的伸びている。
		競艇場（職員）	来客数の動き	・イベント実施などの販売促進活動による効果か、ここ最近で一番良い来客数となっている。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	単価の動き	・引き合い件数、受注件数共に増加している。また、受注単価も高水準を維持している。
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・客からの業務発注や見積依頼、問合せなどが増えている。震災後、建設コストの高騰から事業を見合わせていた事業者が、東京オリンピック関係工事の最盛期を過ぎてもコストがなかなか下落しないことから、事業を実施したほうが優位と判断し計画を進めようとしているのではないかと。
		その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	販売量の動き	・工事の問合せは前月より減少しているが、増改築などの大型工事により売上が増えている。
	商店街（代表者）	販売量の動き	・猛暑続きで客足が遠のいていたところに、よりによって地元の大きな祭りの開催期間中はずっと天候に恵まれなかった。道路中央部にアーケードのない商店街では、来街客が激減状態となっている。	

	商店街（代表者）	来客数の動き	・好天の日が続いているが、ここきて夏物商材の動きが鈍くなり、更に秋物商材が動かないという中途半端な状況になっている。飲食に関しては相変わらず変化はないが、順調に推移している。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・異常な暑さと天候不順は、直接日々の来客数に反映されている。
	一般小売店〔書籍〕（経営者）	単価の動き	・基本的に消費マインドがなかなか持ち上がっていない。必要なものに対しては引き続き堅調に推移しているが、何となく生活の価値観を感じない消費動向であるので、売る側は消費者のモチベーションづくりに苦労している。
	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・売上自体は前年を3%上回っているものの、来客数は前年比95~96%となっている。景気としては悪くないが来客数の減少が気に掛かる。
	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・今年の夏は猛暑に加えてゲリラ豪雨も少なかったため、飲食店への販売量が良い状態である。その反面、お中元ギフトが伸び悩んでおり、全体的に販売量も予算も減少傾向となっている。特に一般消費者はその傾向が顕著であり、今年はお中元を控えるという話も聞こえている。
	一般小売店〔寝具〕（経営者）	販売量の動き	・今月は初盆のお返しなどのギフト関係が動いたが、粗利の出る商品は相変わらず動いていないため、厳しい状況が続いている。
	一般小売店〔カメラ〕（店長）	販売量の動き	・低額商材の販売が厳しい状況が続いているものの、高額商材の動きが良く売上を確保している。
	百貨店（企画担当）	販売量の動き	・販売量や売上に変化がない。
	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・夏物商戦とお中元ギフト商戦に大きなトレンドの変化はなく、3か月前と比べても大きな変化はない。
	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・前年と比較して売上の推移に変化がない。
	百貨店（経営者）	販売量の動き	・来客数は減少しているものの、高額商材が堅調に推移しているため、客単価は向上している。ただし、中盤以降秋物へと切り替わる衣料品については、気温が高く動きが鈍い。
	スーパー（経営者）	単価の動き	・暑さの影響が、農産品、畜産品の品質が低下しており、高価格が続いたにもかかわらず、8月の平均1品単価は1%強の前年割れとなっている。来客数の動きも鈍く、購入点数の動きも前月同様の推移であり、全体としての消費の傾向に変化はない。
	スーパー（営業担当）	お客様の様子	・7~8月は異常な暑さが続いたため、飲料水、アイス、麺類などの売上が好調に推移している。ただし、これは天候によるものであり景気や競合店の状況は変わっておらず、来客数の前年比は98%台と低調に推移している。
	コンビニ（店長）	来客数の動き	・8月の前半は天候が悪かったものの、全体的に前年よりも暑い日が続いているため、飲料やアイスなどの冷たいものが売れている。その分の来客数が上乘せられているため悪い数字ではないが、景気の動きによるものではない。
	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・夏物のファイナルセールや、ポイントアップの販売促進策により、売上が前年より5%伸びている。
	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・お中元商戦が終了し、地元の祭りも例年より来客数が減少している。地元の被害は少ないが、台風や豪雨の被害にあった地方では観光どころではないのか、土産品の売上に多少響いている。
	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・猛暑の影響で夏物商材の動きが良い反面、秋物商材が立ち遅れており、更にビジネス衣料も盛り上がっていないため、結果としてプラスマイナスゼロの状態である。
	衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・サマーフォーマルについては好調に推移しているが、その他のビジネス衣料品は相変わらず苦戦しており、動きが鈍い状況が続いている。
	衣料品専門店（総務担当）	来客数の動き	・猛暑などの天候要因も影響しているのか、来客数が減少しており、売上に影響している。
	家電量販店（店長）	販売量の動き	・夏の暑さの影響で、引き続き扇風機、エアコンなどの冷房関係のものが売れている。映像商材も、有機ELテレビなどの高単価なものも売れているが、安い液晶テレビも引き続き順調に売れるなど、両極端な動きがみられている。白物家電は買換え需要を中心に動いており、単価は前年並みとなっている。

家電量販店（従業員）	販売量の動き	・猛暑により夏物商材の販売が好調である反面、期待していた4Kテレビの売行きは余り芳しくない。高付加価値の有機ELテレビなども、良い商品が出てきているにもかかわらず、伸び悩んでいる。販売量が増えないということで、年末からの4K放送がどうなるのか懸念が残る。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・全体的に車の販売量が伸びていない状況が続いている。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・数か月前と比べて、客の動きに変化がない。
乗用車販売店（本部）	単価の動き	・新型車の効果が大きく、販売量はある程度好調に推移している。ただし、既販車種の状況は芳しくない。中古車販売は順調な伸びを示しているものの、価格帯が低いため利益にはつながりにくい。そのため、全体的に大きな変化はみられていない。
自動車備品販売店（経営者）	お客様の様子	・受注量の動きに変化がない。
その他専門店〔酒〕（経営者）	単価の動き	・酷暑のため、飲食店は一部を除いてやや苦しい状況である。お盆は思ったよりも商品が動いたが、量販店なども単価が上がっているため、客の動きがどうなるか予断を許さない状況が続いている。
その他専門店〔食品〕（経営者）	販売量の動き	・8月は観光や帰省のシーズンであるが、前月のお中元同様に消費者の財布のひもは固い様子である。し好品やぜいたく品に分類される食品にとって厳しい夏となっている。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	販売量の動き	・猛暑の影響で灯油、軽油の販売量が減ってきている。価格は落ち着いているものの、需要減少が効いている。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	販売量の動き	・猛暑の影響で需要が増えると期待したが、燃料油単価の高止まりにより、販売量は増えていない。
一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・8月はお盆の帰省もあり、来客数は例年と同様の数字となっているものの、県外からの客と地元客では客単価に開きが出ている。収入の差というよりは地元で元気がないことが原因ではないか。今後の経済の動きがつかめないため、節約モードに入っている消費者が多いとみている。
観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・景気はここ数か月変わらず良くない状態が続いている。前年同月は高校生の大会などで来客数が増えたが、今年はその分がマイナスになり、一昨年と同じ状況となっている。
観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・夏休みということもあり、来客数は例年並みとなっているものの、上向くまでには至っていない。
観光型旅館（スタッフ）	販売量の動き	・宿泊単価を下げたり、飲物付きの販売を行ったりしても、状況に改善の兆しがみられていない。また、大雨などの自然災害の影響でキャンセルも発生している。
都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・8月は当県もかなり暑かったが、他県と比較すれば比較的安定した暑さである。爆発的な人出はなかったものの、ある程度の子連れ客が来県しており、宿泊及び同窓会などの宴会が前年を上回っている。
都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・団体利用があるため、宿泊は前年並みに推移している。一般宴会は納涼会などの利用で前年並みであり、レストランでは個室利用も多い。ただし、婚礼部門はマイナスである。
旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・旅行業界は夏の繁忙期を迎えているが、2～3か月前と比較してもそれほど大きな変化がなく、通常どおりの繁忙期の動きとなっている。
通信会社（営業担当）	お客様の様子	・8月はお盆需要などがあるが、帰省客が前年よりも少ない様子である。また、地方の観光地も観光客が減少しており、お盆期間中にもかかわらず、空室状況と料金設定が通常どおりとなっている。猛暑の影響で外出が控えられている印象であり、前月と変わらない景況感である。
通信会社（営業担当）	お客様の様子	・猛暑の影響で一部家電メーカーの景気は良いものの、その他の業種ではさえない状況にある。そのため、全体的には横ばい傾向が続いている。
通信会社（営業担当）	お客様の様子	・客の設備投資意欲に変化がみられていない。

	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・12月開始のBS4K8K放送に向けて、新たなサービスメニューの展開を進めているが、4Kテレビや4Kチューナーへの興味をもっている客がまだ少ない。猛暑続きに客の購買意欲も夏休み状態になっている。ただし、家電メーカーを中心に広告展開が進んでくれば、客の取り込みも期待できる。
	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・新製品が売れない。コスト削減の話ばかりである。
	観光名所（職員）	販売量の動き	・繁忙期である8月上旬～お盆期間中の天候に恵まれず、船が出港できないことで、キャンセルが相次いでいる。そのため、景気の判断をしかねる月となっている。
	遊園地（経営者）	来客数の動き	・猛暑や雨などの激しい天候の変化に影響されたものの、お盆の曜日配列に助けられて、36日間の連続降雨にたたられた前年よりは回復している。
	美容室（経営者）	単価の動き	・客単価は前年比がほぼ横ばいで推移している。
	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・消費税の引上げを意識する客が多くなってきており、確実に受注量が増えている。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・猛暑の影響により来街者数の前年比が減少している。夏の大型イベントは例年並みの人出であったものの、雨の影響を受けて飲食販売が伸び悩んでいる。
	百貨店（買付担当）	来客数の動き	・天候が要因なのか、来客数の減少が目立っている。また、クリアランスセールの最終消化も今一つである。
	スーパー（営業担当）	お客様の様子	・お盆を含めても購入点数の動きが鈍くなっている。また、販売促進策やクーポンを前年以上に強化したにもかかわらず、8月の来客数は前年比99.6%と僅かに前年を下回っている。また、購入点数が増えないため、客単価も前年比100.8%と伸び切れていない。
	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・酷暑の影響でソフトドリンクやアイスクリームの販売量が伸びたものの、来客数の減少により売上は前年を下回っている。
	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数の前年比が3ポイント減少している。カウンター商材のコーヒーや揚げ物の不振が影響しており、厳しい状況である。
	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・全国に比べて、地域市場の前年比の見劣りが大きい。
	住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・来客数が減少している。商店街で外国人観光客が目につくようになったものの、売上にはなかなか結びついていない。
	その他専門店 [白衣・ユニフォーム]（営業担当）	販売量の動き	・夏物の動きはほぼ終わっている。今年の猛暑で多少は有用性が認識されたとみているが、ファン付きの作業服は東北ではなかなか浸透せずに苦戦している。東北の人々の我慢強さに驚いている。
	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・猛暑の影響なのかは判断が難しいが、来客数が減少している。夏休みなどもあり観光客を見込んでいたが、かなり低調に推移している。
	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・猛暑の影響かレストランの来客数が減少している。また、宿泊数、法人関連の宴会数も前年を下回っている。
	旅行代理店（店長）	販売量の動き	・国内の団体旅行が減少している。また、個人旅行は国内、海外共に予約数が減少しており、いずれも前年比80%となっている。
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・先行予約の前年比が芳しくない状況である。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・8月は猛暑の影響により、最低限の来客数となっている。
x	一般小売店 [医薬品]（経営者）	来客数の動き	・地元の大きな祭りにおいて、前夜祭～最終日まで雨が降って人が集まらなかった。また、その後は暑くなったものの、月末になって再び雨が続き、来客数が前年比で15%ほど落ちている。
x	一般小売店 [医薬品]（経営者）	来客数の動き	・来客数は3か月前と比較して更に減少しており、客単価も良くない。8月の来客数や売上としては、震災直後や消費税率8%への引上げ後の8月よりも悪く、ここ数十年の中でも最も悪い数字となっている。
x	スーパー（経営者）	お客様の様子	・同業者の食品スーパーのみならず、ドラッグストアもオーバーストア化しており、デフレ価格で客に対応している。このようなことが常態化している。

	x	衣料品専門店 (経営者)	来客数の動き	・夏物の動きも鈍く、客は秋物を楽しみにしているが、まだ入荷がされていない。また、お盆で落ち着かず、来客数も少ない状態である。
	x	住関連専門店 (経営者)	販売量の動き	・受注生産のため、今の納品は以前に受注したものである。新たな受注活動により今月も受注は確保しているが競争が激しく、物件数はあるものの単価が厳しい状況である。
	x	高級レストラン (経営者)	販売量の動き	・猛暑の影響で非常に良くない状況である。ただし、今回の猛暑という一過性の問題だけではなく、やはり経済がうまくいっていないのではないかと。
	x	一般レストラン (経営者)	競争相手の様子	・同業者からも現状が良くないという話を聞いている。当店だけではなく地元の同業者全てが悪い様子であり、景気は下向きとなっている。
	x	観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・個人客の動きが悪い。
企業 動向 関連  (東北)		-	-	-
		出版・印刷・同 関連産業(経理 担当)	受注量や販売量 の動き	・3か月前は10%ほど下回っていた売上の前年同月比が、今月は前年並みに回復してきている。
		金属製品製造業 (経営者)	取引先の様子	・新規の引き合いが増加していることに加えて、多少価格が高くても構わないと強く依頼を受けることが増えている。
		建設業(従業 員)	受注量や販売量 の動き	・大型公共工事などの受注により、景気は拡大傾向にある。
		輸送業(従業 員)	受注量や販売量 の動き	・今月から新規案件の取扱いが開始されたため、好調である。
		広告代理店(経 営者)	取引先の様子	・注文数の動きに伸びがみられている。
		司法書士	取引先の様子	・取引先の不動産業者では、仕入れが意欲的である。
		その他非製造業 [飲食料品卸売 業](経営者)	受注量や販売量 の動き	・天候が前年と比べて良いため、天候に左右される商品の動きが非常に良い。これも景気が良くなっていることで販売につながっているのではないかとみている。
		食料品製造業 (営業担当)	受注量や販売量 の動き	・販売量が前年比95%と、前年割れが続く悪い状況に変化はない。
		出版・印刷・同 関連産業(経営 者)	受注量や販売量 の動き	・飲食店は景気が悪い様子であり、建設関係も発注が減っている。
		電気機械器具製 造業(企画担 当)	取引先の様子	・大きな状況の変化はなく、春先からの開発計画どおりに推移している。
		建設業(企画担 当)	受注価格や販売 価格の動き	・手持ち工事の繁忙度の高い状態が続いている。
		輸送業(経営 者)	取引先の様子	・主要荷主の操業体制の一部変更が予定されている。計画どおりに進むかどうかにかかっているため、先行きの見通しが立てにくい。
		通信業(営業担 当)	取引先の様子	・新規客も既存客も反応が厳しく、対応には限界がある。
		通信業(営業担 当)	取引先の様子	・設備投資より経費削減に重きが置かれている。
		金融業(営業担 当)	取引先の様子	・住宅の着工戸数は順調であるが、その他に大きな変化はない。
		広告業協会(役 員)	受注量や販売量 の動き	・流通、エネルギー、不動産などの主力広告主に目立った動きがなく、広告出稿に突出した業種も乏しいため、横ばいの状態が続いている。
		その他非製造業 [飲食料品卸売 業](経営者)	受注量や販売量 の動き	・お盆時期の需要に期待したが、期待外れに終わっている。
		その他企業[企 画業](経営 者)	受注量や販売量 の動き	・定期的な受注以外の新規案件が少なく、景気が良いとはいえない。得意先は予算に縛られており、その予算額は前年並みである。
		農林水産業(従 業者)	受注量や販売量 の動き	・5~7月はほとんど雨が降らずに干ばつ状態であったため、最盛期の桃は小玉で例年より2ランクも小さい。また、収穫も農協の取扱いが前年の6割となっている。
		農林水産業(従 業者)	それ以外	・8月初旬の豪雨により、転作作物であるそばが水没して発芽できず、収穫が見込めない状況が散見されている。

	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・地元の祭りは、開催期間に雨が続いたことと、曜日まわりも悪かったため、土産品はかなり苦戦した。その後のお盆の帰省は長期休みの人が多かったのか好調であったが、休み明けは動きが悪くなり、月全体としては大きくマイナスになる見込みである。
	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・全国的なスポーツ大会のあった前年と比較して、売上が8%以上減少している。また、一昨年と比較しても2～3%の減少である。
	木材木製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・輸入製品の大量入荷による競合が激しかった前年との比較ではあるが、第1四半期は前年比プラスで推移していた。しかし、7～8月は受注が鈍化しており、前年を下回るなど、住宅着工関連にやや陰りがみえ始めている。
	窯業・土石製品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・出荷量は前年比95%程度の減少傾向が続いている。また、原材料の値上げや運搬コストの増加がみられている。
	金融業（広報担当）	取引先の様子	・各種小売業態の販売状況は横ばいながら、自動車販売台数は数か月連続で前年割れとなっている。
	広告代理店（経営者）	受注量や販売量の動き	・老舗かまぼこ屋の包装紙の出荷率が落ちている。
	経営コンサルタント	取引先の様子	・最近では天候異変による影響が大きく、地元の祭りも開催期間中の3日間は連続して強い雨に見舞われている。
	公認会計士	取引先の様子	・建設関係はまだ利益を計上している企業が多いが、小売業関係は売上、利益共に減少幅が大きくなっている。
	コピーサービス業（従業員）	受注量や販売量の動き	・売上、粗利共に数%落ち込んでいる状態が続いている。販売に関する活動量はさほど落ち込んでいないが、商談に結び付かないケースが多い。
	× 通信業（営業担当）	それ以外	・官房長官の発言により株価が下がっている。また、その発言を受けて電話料金が高いという客が増えている。
雇用 関連  (東北)	-	-	-
	人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・改正労働契約法と改正労働者派遣法による直接雇用促進により、有料紹介手数料が大幅に増加している。その分の派遣取引については消失したものの、新規の大口案件により十分にカバーできている。一過性のすう勢ではあるが、3か月前にはない傾向である。
	人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・採用数が堅調に推移している背景に、求人数及び求人社数の増加がある。多種多様な求人が増えることで、求職者の希望を満たす求人が増え、結果的に採用数が増えるという流れになっている。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・県内において、半導体や自動車関連の企業集積が加速している。
	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・人手不足も要因であるが、給与の増額などの処遇改善の動きが高まっている。
	民間職業紹介機関（職員）	求職者数の動き	・求人への応募がかなり増えている。
	人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・なかなか採用のできない企業が、ホームページ、SNS、パンフレットなどの採用に関わるツールに金を掛けて活動している状況が続いている。
	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・派遣登録者の伸びが前年と比較して変わらない状態が続いている。また、求人とのミスマッチも多い。
	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・求人状況に大きな変化はない。
	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・企業のニーズは高まってきているが、依然として求職者の動きは低調であり、マッチングに苦戦している。
	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・求職者の状況に大きな変化はなく、企業の求人についても増員の要請はない。
	職業安定所（職員）	それ以外	・求人数は増加しているが、一方で新規求職者についても微増傾向にある。また、ここ1～2か月の間に10～30人未満の雇用調整が3件ほど発生している。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・月間有効求人数は3か月前と比較して2.5%減少しているものの、例年の動きと同様であり、景況感に大きな変化はみられていない。
	アウトソーシング企業（社員）	それ以外	・8月は例年売上が落ちる時期であるが、今年は例年以上に落ち込んでいる。

	新聞社 [ 求人広告 ] ( 担当者 )	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 求人数をみる限り地元は伸びておらず、景気上昇感 は余りみられていない。一部の地域は雇用機会が増え てそれなりの伸びをみせているが、それ以外の地域は 慢性的な人手不足のため格差が開く一方である。特に 復興の担い手であった物流を中心に、運転手などの人 手が不足しているという声が高まっている。</li> </ul>
	職業安定所 ( 職員 )	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成24年4月～平成30年4月まで連続して5,000人 を超えていた月間有効求人数は、5月以降5,000人を 下回っている。3か月前と比較すると6.8%減少、前 年同月と比較しても7.5%減少している。また、新規 求人数を産業別でみると、医療、福祉は前年同月と比 較して増加しているが、建設業、製造業、サービス 業、卸売業、小売業は減少していることから、景気は やや悪いと判断している。</li> </ul>
x	-	-	-